

挑戦の木

菅野 レイ子 福島県南相馬市 七十五歳

午前五時、今朝も庭で鳴く鶯の声で目が覚めた。
 実のなる木々があり、季節の花が咲く花壇のある庭で子育てをしたいと手入れを続けて四十年、庭の木々は遠くから見ても我が家とすぐ分かる程育っている。

その庭の中心となっているのが「泰山木」である。空に向かってまっすぐ伸びる姿、気品のある花とその香りはさすがの貫禄といえる。
 その木を夫は「挑戦の木」と名付けた。四十年の間に子供三人、孫九人の大家族となった。それぞれの家族が庭に集い、バーベキュー、すいかわり、花火、泰山木の木登りと続く。泰山木は、根回りが結構太く、適当にこぶや枝もあるので、孫達に木登りの挑戦をさせるのに、中々いい木となっている。

夫は昭和十二年生まれ、野山での遊びの楽しさも技も十分知っている。この楽しさを孫にも味わわせたいと木登りの指導に熱が入る。「木肌に自分の服をびったりあわせろ、枝をどう使うか考えろ、三点支持を忘れるな。」と。

最年長の男の孫が、てっぺんまで登ることに成功、ピースをして記念撮影、これまで成功した孫は、四人。小学生、幼稚園生はまだまだ及ばないが、意欲が顔にあらわれている。

九人の孫の木登りの成功を見届けたいと願っていた夫がこの春突然天国へと旅立った。

孫九人全員の挑戦が成功するまで庭を守る責任を課せられた私、今朝も長ぐつをはいて手ぬぐいを首にまき、庭仕事に励んでいる。